

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
新磯地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月
新磯地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

1	都市計画・都市整備	P 1
2	【重点】道路・交通	P 1
3	住環境・生活環境	P 2
4	自然・環境	P 3
5	産業・観光・商店街	P 4
6	安全・安心	P 5
7	健康・医療・福祉	P 6
8	【重点】教育・子育て	P 7
9	生涯学習・文化・スポーツ	P 8
10	地域コミュニティ	P 9
11	基地	P 9
	会議経過	P 10

1 都市計画・都市整備

現状と課題

現在、相模原市では麻溝台・新磯野地区整備推進事業として、「新たな都市づくりの拠点」や「新たな産業創出の拠点」の形成を図る取組が進められており、人や企業が集い、地域の活性化が見込まれるところです。

交通環境が十分に整っていない新磯地区においては、高齢等により自動車の運転ができなくなった買い物弱者となる方が少なからず存在し、麻溝台・新磯野地区の整備事業はこうした課題の解決にもつながるものと期待されます。

対応方策

- ・麻溝台・新磯野地区整備推進事業を早期に進め、スーパーマーケット等の地域住民にとって利便性の高い店舗等を誘導する（行政・その他）
- ・超高齢社会の進行に備え、交通不便地区の指定基準を緩和し、コミュニティバスの運行について協議を進める（市民・行政・その他）

2 【重点】道路・交通

現状と課題

新磯地区は道幅が狭い道路が多く、バス路線でもある磯部郵便局前の道路においては、利用者の路上駐車により渋滞が発生する時間帯があります。

また、県道46号（相模原茅ヶ崎）や市道新磯は通学路にもなっており、安全に登校できる幅員の確保や歩道の整備が必要となっています。

さらに、市道新戸相武台の拡幅工事や、大風まつり、芝ざくらまつりなどのイベント開催時に多くの往来がある近江屋道の歩道などの地区内の道路整備については、これまでも要望してきたところですが、住民や来訪者の安全確保のためにも引き続き実現に向けた要望活動が必要です。

対応方策

- 通学路の安全確保のため、県道46号（相模原茅ヶ崎）（特に南消防署新磯分署付近）の拡幅工事、市道新磯の拡幅工事、歩道整備を実施する（行政）
- ・鳩川の河川改修と併せ、歩道の整備を早期に実施する（行政）

- ・横断歩道の確保、スクールゾーン等の路面表示の明瞭化、通学時間帯の車の通行規制、危険な箇所への信号機の設置、ガードレールの新設等を要望する（市民・行政・その他）
- ・住民の利便性向上などを図るため、市道新戸相武台（相武台前駅からキャンプ座間）の拡幅工事や近江屋道の歩道整備、市道磯部98号の整備・延伸を実施する（行政）
磯部郵便局に新たな駐車場整備を要望するとともに、郵便局前の道路を拡幅する（市民・行政・その他）

3 住環境・生活環境

現状と課題

交通環境が充実していない新磯地区においては、高齢等により自動車の運転ができなくなった買い物弱者が存在します。こうした方々の支援を行いたい小売店も存在はするものの、東淵野辺にあった相模原総合卸売市場が平成29年に閉鎖したこともあり、十分な仕入れができない状況にあります。

こうした状況を踏まえ、生活交通の確保や買い物環境の充実など、高齢者が生活しやすい環境を整えることが必要となっています。

対応方策

- ・麻溝台・新磯野地区整備推進事業を早期に進め、スーパーマーケット等の地域住民にとって利便性の高い店舗等を誘導する（行政・その他）【再掲】
- ・超高齢社会の進行に備え、交通不便地区の指定基準を緩和し、コミュニティバスの運行について協議を進める（市民・行政・その他）【再掲】
- ・交通不便地区の生活交通確保のため、乗合タクシーの運行や、既存バス路線の見直し、増便、停留所の見直しを働きかける（市民・行政・その他）
- ・JR相模線相武台下駅のバリアフリー化を要望する（市民・行政・その他）
- ・自由に動き回れない高齢者のために、買い物の代行や庭の剪定・草むしりなどの家事を手伝うサービスを提供する組織を設置する（市民）

4 自然・環境

現状と課題

相模川河川敷においては、以前は不法投棄が多い状況にありましたが、クリーン作戦や月2回の団体による清掃を実施してきた結果、改善されてきています。こうした取組は、今後も非常に重要なものとなっています。

また、新磯地区には史跡勝坂遺跡公園があり、人類の貴重な歴史の足跡であるこの公園を保存整備していく必要があります。

対応方策

- ・引き続きクリーン作戦などにより相模川河川敷を保全していくことで、不法投棄しにくい清潔な環境を維持していく（市民・行政）
- ・鳩川の河川改修と河川内の浄化に向けた美化活動を進める（市民・行政）
- ・勝坂遺跡公園下段部の史跡としての追加指定を目指し、飛び地の史跡を含めて総合的に保存整備する（行政）



5 産業・観光・商店街

現状と課題

新磯地区では、相模の大凧まつりや相模川芝ざくらまつりなど、大きな観光イベントが開催されているほか、史跡勝坂遺跡公園や相模原市磯部民俗資料館のような歴史的な観光資源や、なでしこリーグ1部で活躍するノジマステラ神奈川相模原のクラブハウスも有しており、こうした地域の資源を活用しながら地域の活性化を図る取組が重要となっています。

また、高齢者を中心とした買い物弱者の方々が、不便なく買い物ができる仕組みについて、検討する必要があります。

対応方策

- ・相模原市磯部民俗資料館が保有する様々な収蔵品の展示場所を、勝坂遺跡公園内に整備し、観光資源の一つとして活用する（市民・行政）
- ・JR相模線相武台下駅やその周辺の階段、ベンチ、時計などをノジマステラ神奈川相模原のチームカラーで装飾、ラッピングするなど、チームと連携した観光振興を進める（市民・行政・その他）
- ・農業公園や相模川親水広場などの新たな地域資源と観光事業とを一体化した観光拠点を整備する（市民・行政）
- ・相模の大凧まつりなどの集客力の大きいイベントを活用して、訪れた人が地域で飲食や買い物をするなど、観光客の増加が地域の活性化につながる仕組みづくりを検討する（市民）
- ・買い物代行サービスの提供や移動販売の実施などによる買い物弱者支援を行う（市民・行政）
- ・大型商業施設による送迎バスの運行を要望するとともに、商業施設へのアクセス性を高めるために道路を拡幅するなど商店の少ない地域でも買い物がしやすい環境づくりに取り組む（市民・行政・その他）

6 安全・安心

現状と課題

災害時において、災害時要援護者への対応について市と協定を締結していますが、具体的にどのように動くべきかが明確ではなく、防災専門員、自治会、民生委員、消防団等の連携についても同様のことが言えます。

また、共働き世帯が多くなっている現状の中、子どもたちを地域で見守る体制が重要となっていますが、人的確保が困難であり、継続的な活動に支障があります。

対応方策

- ・災害時要援護者避難支援事業について、行政と地域、各団体が連携し、協定を有効に活用できるよう地域独自の方策・方針を作り上げ、地域に提示する（市民・行政）
- ・消防団の活動や組織の抜本的な見直しを図りつつ、団員の確保に努め、防災体制を強化する（市民・行政）
- ・災害時のハザードマップに基づき、洪水、土砂災害、地震など災害の種別ごとに避難所を別の場所に設定する検討を進める（市民・行政）
- ・子どもたちの安全確保について、PTAが主体となって動くことができる仕組みの構築、地域の関係団体との連携、見守り隊の充実などについて検討する（市民・行政）
- ・三段の滝下から相模川沿いに続く遊歩道に街灯を増設し、夜でも安心して歩けるようにする（行政）

7 健康・医療・福祉

現状と課題

新磯地区の2065年における高齢化率は42.8%と、市全体の推計を上回る高齢化の進行が見込まれています。

こうした中、地域の住民が自ら健康維持に向けた取組を行う環境づくりが重要となっています。

対応方策

- ・まちづくりセンターなどの公共施設に健康測定コーナーを設置し、気軽に健康づくりができる環境を整える（行政）
- ・介護事業所や民間施設において、ウォーキングなどの途中に、気軽にトイレ休憩や水分補給ができるようベンチを設置する等、受入態勢を整える（市民・その他）



8 【重点】教育・子育て

現状と課題

以前のように3世代が同居せず、現在は別居している世帯が多く、両親が忙しい中、家庭でのしつけが十分であるか疑問に感じる点があるほか、自宅に子どもが1人であるケースも見受けられます。イベントが盛んな新磯地区においては、様々なイベントを通じて、子どもたちと地域のかかわりをより一層進めることが重要であると言えます。

また、新磯地区においては子どもの遊び場所が不足しており、子どもたちが安心して遊ぶことができ、健やかに成長できる環境の整備が必要です。

対応方策

- ・日頃から大人同士で交流を深め、互いに支えあいながら子育てをする（市民）
- ・学力は学校、しつけは家庭、地域はその補助という役割を明確にした上で、充実した家庭教育を実施する（市民・行政）
- ・引き続き学校と地域の連携を深め、活動を活発にする（市民・行政）
- ・子どもたちの放課後の過ごし方などについて、上級生が下級生を見守る仕組みをつくるなど、児童の学年に応じた対応を検討する（市民・行政）
農業公園や相模川親水広場など、遊具がなくてもボール遊びや水に親しむことができる場所を新設する（行政）
- ・子どもの居場所づくりについて、今後増加することが見込まれる空き家の利活用も含めて調査、研究する（市民・行政）
子どもたちの健やかな育ちのために、現在も行っている農業体験や凧作りなどのようなイベントを身近な自治会の集会所や自治会館で開催し、また、こうしたイベントを開催する大人の育成を図る（市民）

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

会社を退職後、生涯学習の機会を求めはするものの、情報は十分に得られず、サークルや講座への参加に至らないケースが多い傾向にあります。

講座等の生涯学習の場では、リピーターは多いものの新規の参加者は少なく、特に男性の参加者が少ない現状にあります。一方で大凧まつりなどの地域のイベントには男性が多く参加していることから、何かしらのきっかけを与える環境の整備などが必要となっています。

また、新磯地区の歴史である史跡勝坂遺跡公園や相模の大凧揚げ文化などを保存し、その継承を図っていく必要があります。

対応方策

- ・ 講座等の案内冊子を作成し、広くPRする（市民・行政）
- ・ 男性が参加しやすい環境づくりなど、ターゲットを絞った上で積極的に参加募集する（市民・行政）
- ・ 勝坂遺跡公園下段部を史跡としての追加指定を目指し、飛び地の史跡を含めて総合的に保存整備する（行政）【再掲】
- ・ 相模原市磯部民俗資料館が保有する様々な収蔵品の展示場所を、勝坂遺跡公園内に整備し、観光資源の一つとして活用する（市民・行政）【再掲】
- ・ 相模の大凧まつりなどの歴史ある観光事業に対する行政の支援を拡充する（行政）



10 地域コミュニティ

現状と課題

生活様式や価値観の多様化などによる近所付き合いの希薄化が、全国的な傾向と同様に新磯地区でも問題となっていており、いざというときの対応力や地域で子どもたちを育てていく意識が低下することなどが懸念されます。

このため、誰もが気軽に安心して集える場の創出や、地域の人たちがともに支えあい協力しながら、住みよいまちづくりを進めていく意識の醸成が重要となっています。

対応方策

- ・子どもから大人まで、全ての世代の人たちが集える居場所づくりを進める（市民・行政）
- ・公民館を生涯学習の拠点として、地域住民が心豊かに生き生きと安全・安心に生活できる住みよい地域社会を実現するため、地域における様々なボランティア活動、住民活動の推進と協力体制の充実を図る（市民・行政）

11 基地

現状と課題

新磯地区にはキャンプ座間があり、ヘリコプターなどによる騒音被害に悩まされ、住民は不安な生活を送っている現状にあります。

一方、地域と米軍とが交流するイベントはあるものの、その周知は十分でなく、数も多くはありません。基地との共存や情報の共有を図る場として、交流の場を創出していくことが重要です。

対応方策

- ・引き続き米軍に対し事故防止策の徹底や騒音抑制を要望する（市民・行政）
- ・既存の米軍との交流イベントの申込方法を明確にする（行政）
- ・基地と共存していく上で、キャンプ座間の施設見学会のようなイベントを行い、情報の共有を図っていく（市民・行政）
- ・地域イベントへ米軍を招待する（市民）
- ・小さなことから少しずつ交流を深める事業を実施する（市民・行政）

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月31日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	23名
6月28日	第2回 ・課題と対応方策検討	23名
7月26日	第3回 ・課題と対応方策検討	18名
8月23日	第4回 ・報告書のとりまとめ・重点項目の検討	21名
9月27日	第5回 ・報告書のとりまとめ・重点項目の検討	19名